

令和5年度学校・家庭・地域連携総合推進事業 目標シート

●R5年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の種類1	課題の種類2	課題の詳細	左記課題の解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	昨年度の実績値	単位の単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)
仙北市	①学校運営上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	学校と地域の連携・協働により行う、子どもたちの豊かな学びについて、連携体制が不十分であるため、人材確保や受け入れ先確保に係る業務が教職員の負担となっている。	・協働本部の体制整備として、推進員の配置や研修機会等の充実。 ・協働活動の推進・充実のため、教職員に対する研修等の実施と推進員とのコミュニケーション機会の創出。 ・熟議の実施等による学校・家庭・地域の目標の共有。	・協働活動による学びを通して、子どもたちの地域に対する愛着や誇りに思ふ気持ちの醸成。 ・協働活動による学びを通して、子どもたちや地域ボランティアの活動に対する達成感・充実感の向上。 ・協働活動による学びを通して、教職員の地域連携に対する負担感の減少や意識の向上。	・協働活動へ参加する地域ボランティアの人数。	221	人	350	249	2 ・新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、各学校で地域の特性を生かした多様な活動が広く展開されるようになった。 ・いくつかの学校では、月1回程度、推進員との定例打合せが行われ、コミュニケーションの機会が設けられた。定例打合せが行われたことで、活動の見通しが立ったり、振り返りが行われ、活動がこれまで以上に協働の視点によるものになった。学校が、推進員や地域住民との関わりが増えたことで、教職員の地域連携への意識にも変容が見られた。 一方、定例打合せが行われていない学校では、活動の展開や地域連携に課題が見られ、推進員の活動の機会も少なかった。
仙北市	①学校運営上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	協働活動は、地域の人との関わりが前提となるため、安全・安心の確保と、感染症への対応が課題である。 また、必要に応じて延期や中止などの柔軟な対応が求められる。	・子どもたちと地域ボランティアの双方の安全・安心を確保しながら、連携・協働による学びの機会を確保する。 ・活動内容や実施方法の工夫、感染症の状況への柔軟な対応を行う。	・学校と地域が目標を共有して行う協働活動を計画・立案すること。 ・感染症等の状況に応じた柔軟な対応をとること。	・協働活動の計画数。 ・柔軟な体制のもとで行った協働活動の実施数。	62	件	70	104	4 ・学校と地域の連携体制や推進員とのコミュニケーションの機会が充実により、子どもたちの安全・安心を確保しながらの活動が柔軟に実施された。 ・ツキノフグマの人里への出没が増えたが、単に活動を延期・中止するのではなく、地域住民の協力を得て実施するなどの柔軟な対応が取られた。
仙北市	②学校と地域の課題	その他	仙北市の地域課題として、人口減少・少子高齢化があげられる。中でも若者の定住を進め、社会減を食い止めることや、子どもたちの数が減る中で適正な教育環境を確保することが大きな課題となっている。	・若者の定住を進める「ヤマメ・サクラマスプロジェクト」や、子どもたちの教育環境を確保する「学校適正配置」の取組が進められようとしている。子どもたちの学びを支え、元気な地域づくりを進める協働活動やコミュニティ・スクールを、これらの取組と関連させながら推進していくことが求められる。	・学校と地域の連携・協働のもと、「ヤマメ・サクラマスプロジェクト」の取組を進め、地域を支える人材としての子どもたちの育成を図る。 ・学校運営協議会制度を導入し、地域住民等が、学校運営の当事者として参画する取組を進め、学校のあり方や子どもたちの教育環境を本気で考える地域の体制づくりを進める。	・コミュニティ・スクールにおける熟議や学校適正配置に係る住民意見交換会等への参加人数。	172	人	250	328	4 ・各学校での熟議は、コミュニティ・スクールの導入に向けて「地域で子どもたちにどのように育ってほしいか」をテーマに実施した。学校・家庭・地域の多様な立場の人同士で、活発的な意見交換が行われ、参加者から好意的な感想が聞かれた。 ・子どもたちへの関心が高く、協力的な地域住民が多いことが、熟議への参加者数や意見交換の様子から見て取ることができ、充実した交流の場となった。